

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1) 教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

教育課程編成委員会においては、本校教育課程充実に向け、各学科関連業界との連携を密にし、現状カリキュラムの確認や今後取り入れていくべき内容についての関連な意見交換を行う。また、審議内容についての本校教育課程への導入等について審議していくものとする。

(2) 教育課程編成委員会等の位置付け

本委員会は、各学科ごとに実施運営される。本委員会にて決議した内容については学校長へ答申し、学科別会議や各専攻分会、授業別会議等において、内容等について審議したうえで教育課程編成に可能な範囲で反映していくものとする。

(3) 教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成31年3月31日現在

名前	所属	任期	種別
井筒 稔晴	一般社団法人日本音楽スタジオ協会	平成30年4月1日～令和4年3月31日(4年)	①
里見 匡一	有限会社パブリックミュージックワークス	平成30年4月1日～令和4年3月31日(4年)	③
榎田 奨	フリートランジット・ワークス・ミュージック・ファクトリー	平成30年4月1日～令和4年3月31日(4年)	③
井尻 健作	株式会社スタジオアッシュ	平成30年4月1日～令和4年3月31日(4年)	③
森 久誌	株式会社 フォレスト	平成30年4月1日～令和4年3月31日(4年)	③
木川 洋	株式会社大阪フェルナンテス	平成30年4月1日～令和4年3月31日(4年)	③
杉山 徹	ミュージシャン学科 学科長		学校責任者
豊馬 方樹	音楽技術学科 学科長		学校責任者
小池 敏	総合学科 学科長		学校責任者
白藤 浩史	ダンス学科 学科長		学校責任者
横山 友之	楽器ビジネス学科 学科長		学校責任者

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役員(1企業や関係施設の役員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役員

(4) 教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

年間2回の実施(10月、3月)

(開催日時)

第1回 平成30年10月25日

第2回 平成31年3月14日 / 平成31年3月15日

(5) 教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

意見、ダンサーの職歴として、インストラクターのコースは拡がっている。特に10代のダンサーにとって人気があるクラスの特徴は「若い講師」「振付・演出の能力に優れている講師」といったものが見受けられる。大人数の作品を制作し、発表するイベントがダンス業界の流行にもなっているため作品の制作能力を磨いていくことがキャリア形成につながると思われる。

一活用状況: 2019年度より世界的な流行のダンススタイルの一つである「アーバンスタイル」をカリキュラムに取り入れ、振付師としても実績のある講師を担当に配置。また、ダンスに関する協会との連携も開始、インストラクター養成に力を入れている。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

本校は、カリキュラム構築・個別授業構築において業界関係企業との連携を密にし、実践に対応した教育内容を提供するために努力している。また、内容に応じて業界関係企業と提携し、実技・実習・演習等の運営を委託し実施している。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容

講義実習における実習の授業の実施
特別実習における専用施設を使用した実習の実施及び講師派遣
前後関係の実施、作品・実習等における採点、卒業等総合評価を行う。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
ストリートダンス実技A	ストリートダンスの中でもポピュラーなヒップホップ、ロッキングの基本技術や振付について学習し、リズム感を養います。	株式会社アドヒップ
ジャズダンス実技	ターンなどジャズダンスの基本となる動作や、基本技術を応用した振り付けを学習し、美しく伸びやかな踊り方を養います。	株式会社アドヒップ

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針
 教員が学校の基本方針を理解し業務を遂行する上において、自身の自己研鑽に努めることの必要性を理解するとともに、学生・生徒の人材育成において必要な知識や技術の習得を目的とする。また、全体での実施はもちろん、自己研鑽における自発的な研修参加や音楽活動等についても業務に支障のない範囲でバックアップする。教員は、キャットミュージックカレッジ専門学校 講師・教職員研修規定に基づいて、学園又は各種団体等の研修を受け、資質の向上に努めている。その内容については、教務部が定める年間行事予定において計画される。

(2) 研修等の実績
 ① 専攻分野における実務に関する研修等
 ・2018年5月04日 株式会社ADHIP ダンス指導教員5名参加「OLD SCHOOL NIGHT」
 ・2018年8月25日 株式会社ADHIP ダンス指導教員4名参加「JAPAN DANCE DELIGHT」
 内容：海外ダンサーも多数出場する世界規模の大会。ダンスシーンの現状把握やダンススタイルの研究を行う。
 ② 指導力の修得・向上のための研修等
 ・2018年3月09日 株式会社ベネットキャリアより講師派遣 教員10名参加
 内容：今年度の学生とのコミュニケーション研修会

(3) 研修等の計画
 ① 専攻分野における実務に関する研修等
 ・2019年5月05日 株式会社ADHIP ダンス指導教員5名参加「OLD SCHOOL NIGHT」
 ・2018年8月24日 株式会社ADHIP ダンス指導教員4名参加「JAPAN DANCE DELIGHT」
 内容：海外ダンサーも多数出場する世界規模の大会。ダンスシーンの現状把握やダンススタイルの研究を行う。
 ② 指導力の修得・向上のための研修等
 ・2020年3月24日 株式会社ベネットキャリアより講師派遣 教員10名参加
 内容：コミュニケーションスキル教員研修会

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針
 学校関係者評価においては、本校にて実施している自己評価(学校運営・教育活動・学生支援・教育環境・学生の受け入れ募集など)を基に、業界企業・教育団体・地域との連携による教育活動など、本校の活動について説明。そして、さらなる教育活動へつなげていくために様々な角度からその運営が適正に行われているのか等、審議・助言いただき、今後の発展・改善に寄与していく。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	教育理念・目標
(2) 学校運営	学校運営
(3) 教育活動	教育活動
(4) 学修成果	学修成果
(5) 学生支援	学生支援
(6) 教育環境	教育環境
(7) 学生の受け入れ募集	学生の受け入れ募集
(8) 財務	財務
(9) 法令等の遵守	法令等の遵守
(10) 社会貢献・地域貢献	社会貢献・地域貢献
(11) 国際交流	※該当なし

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況
 学校関係者評価を基に、施設・設備の新規設置や地域連携などの点において、次年度カリキュラム等への反映について審議をいただいている。新設の設備備品については「時代背景を考慮した新しさは必要であるが、学びの場である以上本質的な作業工程の意味合いを理解しやすく、汎用性を兼ね備えたものを選択の基準とすることが望ましい」との意見を頂く。また、業界での就職においてはPC操作スキルが望まれているので、環境の整備を継続するよう進言があった。Office系Draw系授業のPC入れ替えを検討し、新年度に向けて入れ替えを行っている。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成31年3月31日現在			
名前	所属	任期	種別
三原 淑治	エム・アイ・プランニング株式会社 代表取締役	平成30年4月1日～令和4年3月31日(4年)	企業等委員
東 龍太郎	科学技術学園高等学校 大阪分室長	平成30年4月1日～令和4年3月31日(4年)	校長等
高橋 国明	第6期生(1994年卒業)(株式会社日電社取締役)	平成30年4月1日～令和4年3月31日(4年)	卒業生
浦川 紀征	株式会社リハフォー 代表取締役会長	平成30年4月1日～令和4年3月31日(4年)	企業等委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。
 (例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期
 (ホームページ)
 ホームページにおいて公開(URL:https://www.cat.ac.jp/data/)・令和元年10月末

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針
 本校の理念でもある、「業界にとって信頼できる人材育成機関であること」を実践していくためには、本校教育内容等の情報提供について積極的に行っていくべきである。本校は、学生の日常・教育内容などについてWEBサイト・冊子の発行等を通じて行っていくこととする。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校概要、教育理念、教育目標
(2) 各学科等の教育	各専攻カリキュラム概要
(3) 教職員	講師、特別講師
(4) キャリア教育・実践的職業教育	産学協働特別授業、企業の声
(5) 様々な教育活動・教育環境	日常トピックス、行事レポートの公表
(6) 学生の生活支援	※該当なし
(7) 学生納付金・修学支援	募集要項、教育ローンの案内
(8) 学校の財務	学校の財務
(9) 学校評価	自己評価、学校関係者評価
(10) 国際連携の状況	※該当なし
(11) その他	※該当なし

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法
 ホームページにおいて公開(URL:https://www.cat.ac.jp/data/)

授業科目等の概要

(文化・教養専門課程 ダンス学科 ストリートダンス専攻)															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			業界概論	ダンスに関わる業界の成り立ちからエンタテインメント業界全体におけるダンス・ダンサーの立ち位置や役割、将来に関することを学んでいきます。	1・2年通年	124	8	○			○		○		
○			コンディショニング	ダンスを踊っていく上で必要となってくる身体に関する知識（筋肉や骨格など身体の構造、健康な身体とケガをしたときの身体の違い等）を学習していきます。	1・2年通年	124	8		○		○			○	
○			音源制作	波形編集ソフトを使用し、ダンスパフォーマンスに必要な音源の制作や編集方法を学習します。また、ダンスミュージックに関する知識の指導も行います。	1・2年通年	124	8		○		○				○
○			ステージ制作	前期、後期の発表会に向けてダンス作品の振り付け、制作や照明を使った舞台演出など、ステージ制作に関わる知識や技術を学習します。	1・2年通年	124	8		○		○				○
○			ストリートダンス実技A	ストリートダンスの中でもポピュラーなヒップホップ、ロックンロールの基本技術や振付について学習し、リズム感を養います。	1・2年通年	248	8			○	○				○
○			ジャズダンス実技	ターンなどジャズダンスの基本となる動作や、基本技術を応用した振り付けを学習し、美しく伸びやかな踊り方を養います。	1・2年通年	186	6			○	○				○
○			ヨガ	ヨガの基本的な概念を通じて、人体の構造や心身のバランスについて学び、ダンサーとして自分自身で体のメンテナンスを行う方法を学習します。	1年通年	62	4		○		○				○
○			ストリートダンス実技B	ストリートダンスに分類される様々なジャンルのダンスを学習し、振付への対応力を磨くとともにダンサーとしての身体づくりを行います。	1年通年	248	8			○	○				○
○			ダンスマスター	1年次に学習したダンスをさらに深く学習し、細かな表現方法やダンススタイルについての研究を行い、個性を発揮できる踊り方を学習します。	2年通年	372	12			○	○				○
○			インストラクティング	ダンスやヨガのインストラクターとなるためにレッスンプランの作成や模擬授業などを行い、指導者として必要な知識と技術を学習します。	2年通年	372	12			○	○				○
○			イベント制作	学内のイベントにおいて、企画・制作を学習し、エンタテインメント業界で活動するためのシミュレーションを行います。	1・2年通年	64	2			○	○				○
○			業界研究	様々な企業と連携して学外でのイベント出演、見学を行います。エンタテインメント業界の動向を研究し、現場経験を在学中から積み重ねていきます。	1・2年通年	80	2			○	○				○
合計				12科目		1756単位時間(74単位)									

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
学則、第21条、第22条に則り、各学期末の試験結果及び所定の出席日数により決定する。	1学年の学期区分	2期
なお、各科目の試験等の内容については、各学科長及び担任と授業担務者が打ち合わせの上決定する。	1学期の授業期間	前期16週、後期15週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

1. 「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係			
(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針			
教育課程編成委員会においては、本校教育課程充実に向け、各学科関連業界との連携を密にし、現状カリキュラムの確認や今後取り入れていくべき内容についての関連な意見交換を行う。また、審議内容についての本校教育課程への導入等について審議していくものとする。			
(2)教育課程編成委員会等の位置付け			
本委員会は、各学科ごとに実施運営される。本委員会にて決議した内容については学校長へ答申し、学科別会議や各専攻分会、授業別会議等において、内容等について審議したうえで教育課程編成に可能な範囲で反映していくものとする。			
(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿			
平成31年3月31日現在			
名前	所属	任期	種別
井筒 稔晴	一般社団法人日本音楽スタジオ協会	平成30年4月1日～令和4年3月31日(4年)	①
里見 匡一	有限会社パブリックミュージックワークス	平成30年4月1日～令和4年3月31日(4年)	③
榎田 奨	フリー・トランジット・ワークス・ミュージック・ファクトリー	平成30年4月1日～令和4年3月31日(4年)	③
井尻 健作	株式会社スタジオアッシュ	平成30年4月1日～令和4年3月31日(4年)	③
森 久誌	株式会社 フォレスト	平成30年4月1日～令和4年3月31日(4年)	③
木川 洋	株式会社大阪フェルナンデス	平成30年4月1日～令和4年3月31日(4年)	③
杉山 徹	ミュージシャン学科 学科長		学校責任者
豊島 芳樹	音楽技術学科 学科長		学校責任者
小池 敏	総合学科 学科長		学校責任者
白藤 浩史	ダンス学科 学科長		学校責任者
横山 友之	楽器ビジネス学科 学科長		学校責任者
<p>※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。</p> <p>①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)</p> <p>②学会や学術機関等の有識者</p> <p>③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員</p>			
(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期			
年間2回の実施(10月、3月)			
(開催日時)			
第1回 平成30年10月25日			
第2回 平成31年3月14日 / 平成31年3月15日			
(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況			
<p>・意見:ダンサーの職業として、インストラクターのニーズは拡がっている。特に10代のダンサーにとって人気があるクラスの特徴は「若い講師」「振付・演出の能力に優れている講師」といったものが見受けられる。大人数の作品を制作し、発表するイベントがダンス業界の流行にもなっているため作品の制作能力を磨いていくことがキャリア形成につながると思われる。</p> <p>一活用状況:2019年度より世界的な流行のダンススタイルの一つである「アーバンスタイル」をカリキュラムに取り入れ、振付師としても実績のある講師を担当に配置。また、ダンスに関する協会との連携も開始、インストラクター養成力を入れている。</p>			
2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係			
(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針			
本校は、カリキュラム構築・個別授業構築において業界関係企業との連携を密にし、実践に対応した教育内容を提供するために努力していく。また、内容に応じて業界関係企業と提携し、実技・実習・演習等の運営を委託し実施していく。			
(2)実習・演習等における企業等との連携内容			
<p>・講師派遣における学内授業の実施</p> <p>・特別実習における専用施設を使用した実習の実施及び講師派遣</p> <p>・前後期試験の実施、作品/実習等における採点、出席率等総合評価を行う。</p>			
(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。			
科目名	科目概要	連携企業等	
ストリートダンス実技A	ストリートダンスの中でもポピュラーなヒップホップ、ロックンロールの基本技術や振付について学習し、リズム感を養います。	株式会社アドヒップ	
ジャズダンス実技	ターンなどジャズダンスの基本となる動作や、基本技術を応用した振り付けを学習し、美しく伸びやかな踊り方を養います。	株式会社アドヒップ	

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針
 教職員が学校の基本方針を理解し業務を遂行する上において、自身の自己研鑽に努めることの必要性を理解するとともに、学生・生徒の人材育成において必要な知識や技術の習得を目的とする。また、全体での実施はもちろん、自己研鑽における自発的な研修参加や音楽活動等についても業務に支障のない範囲でバックアップする。教員は、キャリアコミュニケーション専門学校 講師・教職員研修規定に基づいて、学園又は各種団体等の研修を受け、資質の向上に努めている。その内容については、教務部が定める年間行事予定において計画される。

(2) 研修等の実績
 ① 専攻分野における実務に関する研修等
 ・2018年5月04日 株式会社ADHIP ダンス指導教員5名参加「OLD SCHOOL NIGHT」
 ・2018年8月25日 株式会社ADHIP ダンス指導教員4名参加「JAPAN DANCE DELIGHT」
 内容：海外ダンサーも多数出場する世界規模の大会。ダンスシーンの現状把握やダンススタイルの研究を行う。
 ② 指導力の修得・向上のための研修等
 ・2019年3月26日 株式会社ベネッセキャリアより講師派遣 教員69名参加
 内容：今時の学生とのコミュニケーション研修会

(3) 研修等の計画
 ① 専攻分野における実務に関する研修等
 ・2019年5月05日 株式会社ADHIP ダンス指導教員5名参加「OLD SCHOOL NIGHT」
 ・2018年8月24日 株式会社ADHIP ダンス指導教員4名参加「JAPAN DANCE DELIGHT」
 内容：海外ダンサーも多数出場する世界規模の大会。ダンスシーンの現状把握やダンススタイルの研究を行う。
 ② 指導力の修得・向上のための研修等
 ・2020年3月24日 株式会社ベネッセキャリアより講師派遣 教員70名参加
 内容：コミュニケーションスキル教員研修会

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針
 学校関係者評価においては、本校にて実施している自己評価(学校運営・教育活動・学生支援・教育環境・学生の受け入れ募集など)を基に、業界企業・教育団体・地域との連携による教育活動など、本校の活動について説明。そして、さらなる教育活動へつなげていくために様々な角度からその運営が適正に行われているのか等、審議・助言いただき、今後の発展・改善に寄与していく。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	教育理念・目標
(2) 学校運営	学校運営
(3) 教育活動	教育活動
(4) 学修成果	学修成果
(5) 学生支援	学生支援
(6) 教育環境	教育環境
(7) 学生の受け入れ募集	学生の受け入れ募集
(8) 財務	財務
(9) 法令等の遵守	法令等の遵守
(10) 社会貢献・地域貢献	社会貢献・地域貢献
(11) 国際交流	※該当なし

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況
 学校関係者評価を基に、施設・設備の新規設置や地域連携などの点において、次年度カリキュラム等への反映について審議をいただいている。新設の設備備品については「時代背景を考慮した新しさは必要であるが、学びの場である以上本質的な作業工程の意味合いを理解しやすく、汎用性を兼ね備えたものを選択の基準とすることが望ましい」との意見を頂く。また、業界での就職においてはPC操作スキルが望まれているので、環境の整備を継続するよう進言があった。Office系Draw系授業のPC入れ替えを検討し、新年度に向けて入れ替えを行っている。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成31年3月31日現在

名前	所属	任期	種別
三原 淑治	エム・アイ・プランニング株式会社 代表取締役	平成30年4月1日～令和4年3月31日(4年)	企業等委員
東 龍太郎	科学技術学園高等学校 大阪分室長	平成30年4月1日～令和4年3月31日(4年)	校長等
高橋 国明	第6期生(1994年卒業)(株式会社白竜社取締役)	平成30年4月1日～令和4年3月31日(4年)	卒業生
瀧川 紀征	株式会社リハフォーレ 代表取締役会長	平成30年4月1日～令和4年3月31日(4年)	企業等委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。
 (例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期
 (ホームページ)
 ホームページにおいて公開(URL:https://www.cat.ac.jp/data/)・令和元年10月末

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針
 本校の理念でもある、「業界にとって信頼できる人材育成機関であること」を実践していくためには、本校教育内容等の情報提供について積極的に行っていくべきである。本校は、学生の日常・教育内容などについてWEBサイト・冊子の発行等を通じて行っていくこととする。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校概要、教育理念、教育目標
(2) 各学科等の教育	各専攻カリキュラム概要
(3) 教職員	講師、特別講師
(4) キャリア教育・実践的職業教育	産学協働特別授業、企業の声
(5) 様々な教育活動・教育環境	日常トピックス、行事レポートの公表
(6) 学生の生活支援	※該当なし
(7) 学生納付金・修学支援	募集要項、教育ローンの案内
(8) 学校の財務	学校の財務
(9) 学校評価	自己評価、学校関係者評価
(10) 国際連携の状況	※該当なし
(11) その他	※該当なし

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法
 ホームページにおいて公開(URL:https://www.cat.ac.jp/data/)

授業科目等の概要

(文化・教養専門課程 ダンス学科 ダンスパフォーマンス専攻)																
分類	必修	選択必修	自由選択	授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
									講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○				業界概論	ダンスに関わる業界の成り立ちからエンタテインメント業界全体におけるダンス・ダンサーの立ち位置や役割、将来に関することを学んでいきます。	1・2年通年	124	8	○			○		○		
○				コンディショニング	ダンスを踊っていく上で必要となってくる身体に関する知識（筋肉や骨格など身体の構造、健康な身体とケガをしたときの身体の違い等）を学習していきます。	1・2年通年	124	8		○					○	
○				音源制作	波形編集ソフトを使用し、ダンスパフォーマンスに必要な音源の制作や編集方法を学習します。また、ダンスミュージックに関する知識の指導も行います。	1・2年通年	124	8		○					○	
○				ステージ制作	前期、後期の発表会に向けてダンス作品の振り付け、制作や照明を使った舞台演出など、ステージ制作に関わる知識や技術を学習します。	1・2年通年	124	8		○					○	
○				ストリートダンス実技A	ストリートダンスの中でもポピュラーなヒップホップ、ロックンロールの基本技術や振り付けについて学習し、リズム感を養います。	1・2年通年	248	8			○	○			○	○
○				ジャズダンス実技	ターンなどジャズダンスの基本となる動作や、基本技術に応用した振り付けを学習し、美しく伸びやかな踊り方を養います。	1・2年通年	186	6			○	○			○	○
○				ヨガ	ヨガの基本的な概念を通じて、人体の構造や心身のバランスについて学び、ダンサーとして自分自身で体のメンテナンスを行う方法を学習します。	1年通年	62	4		○		○			○	
○				バレエ実技	バレエの基本動作と知識を学習し、柔軟性に富んだ動きや身体の軸をキープして踊る方法を身に付けていきます。	1・2年通年	124	4			○	○			○	
○				表現技法	ダンスの表現をより豊かにするために演技について学びます。表情や所作などを意識した表現や声を使った感情表現方法を学習します。	1・2年通年	248	8			○	○			○	
○				パフォーマー	歌とダンスの両方を使った表現方法について学習します。歌手を引き立てる振付の方法や、歌いながら踊る方法を身に付けます。	2年通年	248	8			○	○			○	
○				テーマパーク	全国のテーマパークオーディション合格を目指し、オーディションの対策授業を行います。また、合格後即戦力として活動できるための技術指導を行います。	2年通年	248	8			○	○			○	
○				イベント制作	学内のイベントにおいて、企画・制作を学習し、エンタテインメント業界で活動するためのシミュレーションを行います。	1・2年通年	64	2			○	○			○	
○				業界研究	様々な企業と連携して学外でのイベント出演、見学を行います。エンタテインメント業界の動向を研究し、現場経験を在学中から積み重ねていきます。	1・2年通年	80	2			○	○			○	
合計					13科目	1756単位時間(74単位)										

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
学則、第21条、第22条に則り、各学期末の試験結果及び所定の出席日数により決定する。 なお、各科目の試験等の内容については、各学科長及び担任と授業担当者が打ち合わせの上決定する。	1学年の学期区分	2期
	1学期の授業期間	前期16週、後期15週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。